

消防団には女性の活躍の場がたくさんあります

男性の世界であると思われがちな消防団。その中で、女性の存在感が増してきています。

消防団員の活動は、消火だけではなく、地域における火災予防広報活動。子どもたちへの防火啓発や火災報知器の訪問説明、応急手当講習、応急物資の配布など、ソフト面を対象とした活動が数多くあります。そこで必要とされるのが、女性ならではの気遣いや細やかさです。子どもや女性が身構えずに訓練に参加することができたり、避難所において女性目線での支援を行うことができるので、女性消防団員の力は絶えず必要とされています。皆さんの熱意と思いやりを、消防団で活かしてみませんか？



こんな活動を行っています

■ 県民への応急手当の指導・救命講習
AEDの使い方やケガをした時の対応など、女性ならではの丁寧で、きめ細かい指導・講習が住民に評価されています。消防団で学んだ知識は、生活の中でも役立ちます。



■ 防火・防災の広報活動

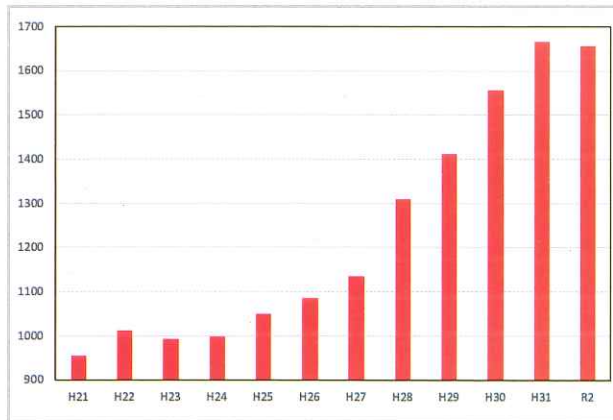
地域の方に、火災予防や防災知識の広報を行います。

■ 消火・救助活動訓練

女性も、男性と同様に消化・救助活動訓練を行っている消防団もあります。災害時には、前線での消火活動だけでなく、住民の安否確認や、地域の見回り、避難所の運営サポートなど、様々な場面で女性の活躍が必要となります。

女性のチカラが必要です

消防団では、女性のきめ細かい対応や活動への期待が高まっています。神奈川県内の女性消防団員は、年々増加し、1,600人を超えました。※令和2年4月1日現在



神奈川県内の女性消防団員数

インタビュー



港北消防団 第八分団
分団長 加藤 康子 (かとうやすこ) さん

■ 入団のきっかけは？

横浜市女性消防団第一期生の友人から声をかけてもらい入団しました。子供の頃、亡き父が分団長として活躍しているのを見て育ちました。刺し子の消防半纏を着て元気に出かける父を思い出します。

■ 普段はどのような活動をしていますか？

女性のみで構成する分団の長として、団員結束のため礼式・小隊訓練を行い訓練会等で展示するほか、資機材取扱訓練・上級救命講習を開催し、能力向上に努めています。また団員募集のため活動PRを行っています。

■ 毎月の消防団活動の回数及び活動時間を教えてください。

月4日、10時間くらい

■ 消防団に入団してよかったと思うことは？

消防団活動を通じて町の安全・安心に貢献している、という実感があります。また、分団員の活動能力が向上していく様子を見ると、分団長としてのやりがいを感じます。

■ 今後の目標をお聞かせください。

いつ来るかわからない大規模災害に備え、訓練・研修で得た知識及び技術を「自ら考え行う訓練」へと実践できる体制を築いていきたいと思っています。そのためにも男女問わず多くの方が消防団に入団してくれればと思います。

■ 災害出場は年何回くらいですか？

火災、風水害で3、4回

■ 消防団活動において印象深いエピソードを教えてください。

たくさんあります。女性操法大会出場を通じ女性団員の結束が高まったこと、また分団長となってから女性団員の活動能力向上と負担軽減を図るため様々な改革に取り組んだこと、さらに港北消防団70周年、女性団員誕生20周年の節目を迎え、様々な行事の場で礼式など日頃の訓練成果を広く区民の方に披露できたことなどです。

